

ここに注目!!

1、石垣

福山城には、石垣が多用され、さまざまな種類の石垣があります。

①打込接

(うちこみはぎ)

石の角を加工して、石垣を積む際に隙間を少なくした積み方です。福山城には、打込接がよくつかわれています。

特徴

長所 高く石垣を積むことができる。
短所 石の加工に手間・コストがかかる。



②算木積

(さんぎづみ)

石垣の隅部に用いられる方法。写真のように、長辺と短辺を交互に積む方法。伏見櫓下の算木積が特に美しいです。

隅部は重要!?

隅部には、櫓などの建築物の柱などが乗ることが多いため、隅部は強固にする必要があります。



※福山城は 1945 年福山大空襲に被災したため、石垣のいたるところに炎によって燃えた跡(石垣が赤くなっている)があります。写真は割れて赤くなった石垣です。



変わった石垣!



未加工の算木積



加工した石垣

福山城には変わった石垣があります。隅部の算木積に注目です。ある1ヶ所だけ加工を途中辞めたような凹凸な石垣があります。なぜなのでしょう?職人が逃げ出した?などといったことを考えてみて下さい。皆さんも探してみてくださいいかがですか?

ヒント・天守から見て西側の二の丸です。
※未加工の算木積石垣の下部に穴が開いています。これは矢穴と言い、石垣を割るための穴です。この石垣は上手に割れた成功例です。

広島大学名誉教授
三浦正幸先生



僕なりに三浦先生が書かれたお城の本をはじめ、今まで多くの本を読んできたつもりでしたが、先生からいろいろなことについて学ぶにつれ、自分の知識不足を感じました。先生に教えていただいたことの中では、石材の輸送量を計算するのに、アルキメデスの原理を使うことに驚きました。また、福山城の伏見櫓の価値について改めて感じる事ができました。

静岡大学名誉教授
小和田哲男先生



日本城郭協会の理事長、小和田先生にお会いすることができました。先生とともに山城に登ることができ、また城や戦国史についてお話しでき、この時間は夢のような時間でした。多くの話を伺い改めて思ったことは、「福山の城はすごい」ということです。

僕はまだまだ知識不足ですが、多くの城をめぐって各地の城の特徴を知り、また専門家の方の論文を読んで知識を深めていきたいと思えます。

最後になりましたが、お忙しい中、僕のためだけにお話をいただいた三浦正幸先生、小和田哲男先生、そしてこの素晴らしいプロジェクトを企画していただいた青少年・女性活躍推進課の方、文化振興課の方など多くの方の協力があってできました。

誠にありがとうございました。

築城400年記念

福山城を歩こう



国指定史跡
重要文化財
日本百名城

銀河学院中学校
2年 (2020年度制作時) 今田航太郎

2、防御システム

城とは?

城は、土地を守るための拠点であるため、豪華な門などの建造物があった福山城でも、数多くの防御システムがあります。

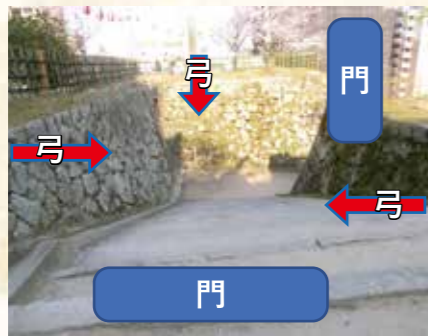
①狭間 (さま)

城の壁である土塀(どべい)に○や□の穴が開いています。これは、狭間といい、ここから鉄砲や弓矢を打つためのものです。この狭間は、土塀以外にも、伏見櫓などの建築物に見られる防御上必要なものです。



②枡形虎口 (ますがたこぐち)

城の出入り口を虎口といいます。写真のように虎口の門を2重にし、門と門の空間を枡形虎口といいます。枡形虎口の周りは、櫓や土塀で固め、そこから鉄砲や弓などで敵を集中攻撃します。



※櫓…物見と高所からの攻撃をするためのものです。福山城には伏見櫓が現存しています。

3、規模

福山城は、10万石の大名の城ですが、50万石ほどの規模を誇る城です。福山城は、西国に力を持った外様大名(毛利、黒田、島津など)がいるため、それらの軍たちが江戸方面に攻められないようにするための砦(とりで)の役割を果たしているため、大きな規模の城であったといわれています。

名古屋城より大きい!?

御三家の城であった名古屋城ですが、櫓の数だけでいえば、福山城の方が、名古屋城より多くあり、また、大阪城の個数とほとんど同じで福山城は非常に大きかったことがわかります。福山城は、西国大名たちを監視し、進軍を阻むというとても大切な役割を果たした城であったのです。